

作付転換を要請する横松組合長



## 飼料用米への転換を JA組合長が作付転換要請



**JA**

の横松久夫組合長は5月17日、  
JA管内のコメ生産者や農業生

産法人を訪れ、22年産の主食用米を飼  
料用米など非主食用米に作付転換して  
もらえるよう協力を要請しました。

コロナ禍でコメの需要が減り、民間  
在庫量の高止まりが続いている。中  
でも栃木県は中食・外食など業務需要  
の割合が高いことから民間在庫量が21  
年より増加しており、米価への影響が  
危惧されています。JAではこれまで  
も主食用米から飼料用米などへの作付  
転換への協力を要請してきましたが、引  
き続き呼び掛けを継続します。

作付転換要請を受けた下野市磯部町  
のコメ生産農家は、作付転換による助  
成金が給付されるまでの間融資を行う  
「JA交付金等つなぎ資金」について  
繰りが厳しい面がある。農業経営に有  
利になるような取り組みをお願いした  
い」と要望しました。

# スタート!!



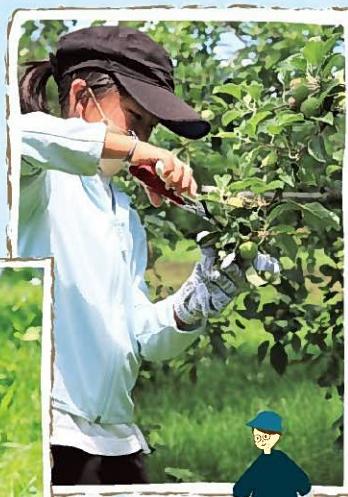
5/15(土)  
田植え体験  
宇都宮市上久町

5家族13人が参加。裸足で田んぼに入り、泥の感触を楽しみながら田植えを行いました。7月中旬には「田んぼの生き物調査」、9月中旬には「稻刈り体験」を予定しています。



5/28(土)  
梨摘果体験  
宇都宮市上籠谷町

5家族16人が参加。複数ついている実の中から大きく育ちそうな実を見つけ、残りをはさみで切り落とす作業を行いました。10月下旬にはにっこりの収穫体験をする予定です。



6/4(土)  
りんごの摘果作業体験  
宇都宮市上小池町

5家族18人が参加。複数ついている実の中で、一番大きい実だけを残してはさみで切り落とす作業を行いました。11月下旬にはふじの収穫体験をする予定です。



## 特集

# 2022年度 くらしの活動

## アグリスクール

6/4土

### いちご収穫& JAグリーンインターパーク 買い物ツアー

宇都宮市下桑島町



5家族17人が参加。イチゴの収穫体験を楽しみました。JAグリーンインターパークでは買い物ツアーを行いました。



6/4土

### たまねぎ・じゃがいも収穫体験 下野市別処山公園



4家族14人が参加。タマネギ・ジャガイモの収穫体験を楽しみました。収穫したタマネギはネットに入れて持ち帰りました。参加者は「たくさん収穫できて楽しかった」と話しました。

## 女性大学

第9期

### 女性大学が開校

5月19日、第9期女性大学入学式・第1回講座「プランターでトマト栽培」を開催。今期入学した受講生24人のうち23人と、JA役職員が出席しました。第2回講座は7月22日に開催予定です。



## 穀類生産のスマート農業 ドローンでリモートセンシング

小麦のほ場を撮影するドローン



**JA**は4月28日、管内のパン用小麦「ゆめかおり」ほ場7ヶ所で、昨年度に引き続き特殊カメラを搭載したドローンによる撮影（リモートセンシング）を実施しました。

今回の撮影では、小麦の出穂期前の葉色、ほ場内の生育状況のばらつきを確認することを目的としています。解析結果と収穫時のタンパク質との関係性を確かめ、高タンパク質化につなげることを目指します。営農管理システムZ-GISと連携することにより、解析結果を色と数値でマップ化し、ほ場内の状況を「見える化」します。

協力生産者は「パン職人が求める高タンパク質小麦の栽培に、リモートセンシング技術を利用することができないと考えている。今後、センシング技術の向上に大きな期待を寄せている」と話しました。



## 真摯に丁寧な対応を 新任貸出担当者研修会

**JA**は5月10日、宇都宮市戸祭元町の本所で「新任貸出担当者研修会」を実施。貸出商品を取り扱う新任職員ら18人が参加しました。

研修会は新任職員の育成を目的に、毎年実施しています。JA資金運用課の谷野博之課長はあいさつで「組合員の持続可能な経営および快適なくらしをするための基盤となりますので、引き続き皆さまのご協力のもと進めていきたい」と語りました。

研修会ではJA資金運用課の中山貴広調査役が講師を担当。中山調査役は「初期対応が大切。お客様からの聞き取りを真摯に丁寧に行うこと」とアドバイスしました。参加者は資金貸出商品の重要事項の確認や借入相談のシミュレーション、質疑応答などを行い、現場での不安や疑問を解決しました。



本所で行われた新任貸出担当者研修会

## 本格出荷に向け現地検討会を実施

JAトマト専門部夏秋トマトグループ



生育状況などを確認する参加者



**JA**トマト専門部夏秋トマトグループは5月20日、現地検討会を宇都宮市新里町の祖母井善昌さんのほ場など4ヶ所で開催。部員や関係機関の担当者など13人が参加しました。

寺崎吉英グループ長は「気温差が激しく、人にも作物にも負担があると思う。今回の現地検討会が少しでも参考になれば」とあいさつしました。

参加者はほ場で生育状況などを確認。県河内農業振興事務所の担当者が今後の気象予報や管理の注意点を説明し、生育状況に応じたかん水や追肥を呼び掛けました。また、JAの技術顧問が今後の栽培管理について説明。梅雨入りが例年より早まる予報であることから、早めの準備を心掛けるよう注意喚起を行いました。

## タマネギ出荷始まる JA玉葱専門部

丁寧にタマネギを選別する従業員



**J A** 玉葱専門部は5月23日、宇都宮市上籠谷町の東部選果場でタマネギの出荷を始めました。2022年度の同専門部の生産者数は172人で、栽培面積は46ha。

選果場では選果員がタマネギの形・大きさや傷みの有無などを丁寧に確認して選別。選別されたタマネギは県内や東北方面の市場に向けて出荷されます。今シーズンは約2200tの出荷を見込んでいます。JA管内の22年産タマネギの生育は順調で、品質や収量も例年並み。販売面では、天候不順による北海道産の不作などの影響で記録的な高値が続いている。JAの担当者は「販売は好調。上がり幅が非常に大きいので、今後の価格推移に注意していく」と話しています。

タマネギの出荷は5月中旬から7月まで行われます。



## SDGsの活動貢献 ペットボトルキャップ回収運動

**J A** 女性組織と青壮年部は5月25日、合同でペットボトルキャップの回収運動を実施しました。女性組織と青壮年部はJAと連携して「地域とSDGsへの貢献」に取り組んでおり、昨年から両組織で活動を継続的に行ってています。

今回の活動では総量約488kgのペットボトルキャップが集まり、世界の子どもたちの命を救うためのポリオワクチン約244本分に変わります。

みどり会の岡本幸子副会長は「ペットボトルキャップを集めることができ、習慣として根付いてきた感じる」と継続の成果を語りました。青壮年部国本支部の半田和寿副支部長は「家庭でキャップを集めるだけで人のためになる。今後も皆さんと続けていきたい」と話しました。



ペットボトルキャップ回収運動に取り組む  
女性組織の会員と青壮年部の盟友

## 集落営農の理解深める 集落営農推進研修会

熱心に話を聞く職員



**J A** は5月26日と27日の二日間、宇都宮市戸祭元町のJA本所で集落営農推進研修会をリモートで開催。26日はJA職員15人、27日は12人が参加しました。同研修会は「集落営農組織の設立に力を入れてほしい」という生産者からの要望を受けて、職員の集落営農に対する知識や理解を深め、組織化の推進や既存組織に対する支援の充実を図るため2022年度初めて実施しました。研修会では、JA栃木中央会農業対策部の担当者が講師を務め、集落営農の基本事項や組織化の進め方などを解説。また、既存組織の活性化のため、作業や機械の共同化などを行い、経費を減らして所得増加を目指し、若手世代の参画を促すことが重要と指摘しました。「高齢化や担い手不足が深刻な状況となる中で、地域農業のあり方を考える必要があり、その解決策の一つが集落営農組織」と説明しました。



J A 営農企画課は「集落営農にJAとして十分なアプローチができるよう、まずは職員の理解を深め、地域や組織にきちんとアプローチしていく」と語りました。



JAうつのみやフェアで管内農産物をPRした



### JAうつのみやフェアで管内農産物をPR (5月14日～16日)

JJAは宇都宮市の福田屋百貨店2店舗でトマト、アスパラガス、ニラなど5品目の管内産農産物を特別ブースで販売しました。



### 子どもたちの好きそうなメニューを考えて (5月23日)

みどり会平石支部は5月23日、宇都宮市戸祭4丁目の昭和こども食堂で調理ボランティアを行いました。今回のメニューは、チキンライス、アスパラガスの肉巻き、春雨サラダ、牛乳かんの4品。郷間久子支部長は「管理栄養士の娘からアドバイスをもらい、子どもたちの好きそうなメニューを選びました」と話しました。

代表者会議に出席した  
なの花会のメンバー

### 2022年度の活動を協議 (5月18日)

JJA女性組織なの花会は5月18日、宇都宮市戸祭元町のJA本所での花会グループ代表者会議を開催し、役員や関係者7人が出席しました。会議では本年度のグループ合同事業の実施や女性組織発行紙の編集委員について協議しました。



調理する郷間支部長ら

机に並ぶ  
今回のメニュー4品

### 保育園児が農業体験 (5月25日)

宇都宮市白沢町のなかよし保育園の園児66人が25日、同園近くのほ場でサツマイモの苗植えを体験しました。JA青壮年部河内支部の盟友が植え方を説明し、園児たちは1本1本丁寧に苗を植え付けました。作業を終えた園児たちは「上手く植えられた」「食べるのが楽しみ」などと話していました。



サツマイモの苗を植える園児

組合員の皆さんからの地域の話題や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。  
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

# 管内インフォメーション

## ロボット田植え機で省力化 水稲生産グループ「城山水稲四石会」



実演を見学する参加者

水

稲生産グループ「城山水稲四石会」は4月27日、宇都宮市下荒針町の林常夫さんのは場で田植えを自動で行うロボット田植え機の実演を行いました。会員や関係機関の担当者ら約50人が参加しました。

同会顧問の林さんが去年導入したロボット田植え機を使い、田植えを実演。林さんがリモコンで遠隔操作すると、田植え機は約1時間で55ha分の水田に苗を植えました。人が苗や肥料を補充するだけで田植え機が自動で苗を真っすぐ植えていくので、大幅な省力化が期待できます。

同会の小平裕一會長は「田植え作業を省力化でき、誰でも正確に植えることができる。導入コストは掛かるが、大規模農家に向いている」と期待を込めました。



## 省力化技術の実証 ドローンとボートの合同実演



**株** 式会社JAアグリうつのみやは5月10日、宇都宮市下小倉町の同社は場で鉄コーティング種子のドローン播種と除草剤のボート散布の実演会を開催。関係機関の担当者ら約20人が参加しました。

JAうつのみやは同社に水稻の新技術実証研究を委託しています。農業者が減少し、より効率的な作業が求められる中、ドローン直播が注目を集めていることから、同実演会を開催しました。

ヤンマーアグリジャパン株式会社の担当者が、ドローンとボートの機体性能や使用方法を説明し実演。播種したは場は約40haで、従来の約半分程度の時間で作業が終了しました。作業を見学した参加者は、ドローンとボートの強みや導入後の維持管理方法などの説明を聞きました。

同社社長の安藤正樹さんは「実演した技術の実践により、作業の短縮・省力化が期待できる。削減できた時間を有効活用し農業所得の増大につなげていきたい」と語りました。



ドローンによる直播の実演

## 日頃の感謝をこめて サンキューイベント



あいさつをする見形常務



JAの見形常務は従業員に「農家や食料の安定供給のために力を尽くしていただいている。これからもお力添えいただきたい」と語りました。

イベントでは従業員全員分のエプロンが贈呈され、質問コーナー、レクリエーションが行われました。

ラ

ンスタッド株式会社は5月20日、「サンキューイベント」を宇都宮市上籠谷町の東部選果場で行い、JAの見形繁常務や同社から派遣された従業員ら84人が参加しました。

イベントは同選果場で働く従業員に対し、日頃の業務に感謝を伝えることが目的です。

同社のポール・デュブイ代表取締役会長兼CEOは「JAとは20年間ずっと仲良くさせていただいている。感謝しています。ありがとうございます」とあいさつしました。

# 水稻

## 施肥

表1 穗肥管理例 (コシヒカリ対象)

茎数	葉色	穗肥時期	幼穂長(cm)	施用量(kg/10a)
少 17本以下	淡 3.5以下	早め 出穂18日前	1	BBNK -202 (205)
普通 18~20本	並 4.0前後	通常 出穂15日前	2	
多 21本以上	濃 4.5以上	遅め 出穂10日前	7	15

※葉色の数字は、カラースケール（葉色版）

図1 水稻の幼穂長

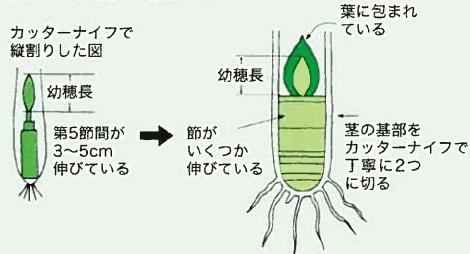


表2 コシヒカリ幼穂長と出穂前日数

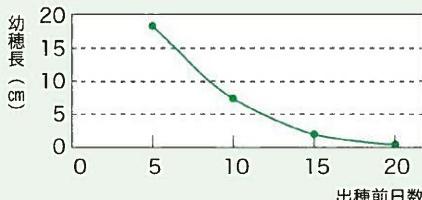


表3 カメムシ類防除剤

薬剤名	散布量/10a	使用時期	使用回数
スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	3回以内
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内
スミチオン乳剤	1000倍液を60~150L	収穫21日前まで	2回以内
トレボンEW	1000倍液を60~150L	収穫14日前まで	3回以内
MR.ジョーカーEW	2000倍液を60~150L	収穫14日前まで	2回以内

表4 水稻現地検討会開催日程

	9:00~10:00	11:00~12:00	13:30~14:30	15:00~16:00
7/12(火)	西部営農経済センター	北部営農経済センター	上河内営農経済センター	河内営農経済センター
7/13(水)	東部営農経済センター	南部営農経済センター	上三川営農経済センター	南河内営農経済センター

根の活力を維持するために、引き続き間断かん水を続けましょう。ただし、茎数が多く葉色が濃いほ場や水はけの悪いほ場では、やや強めの中干しを実施し、幼穂ができたら間断かん水に切り替えます。出穂7~14日前が最も低温に弱いので、最低気温が17度以下の場合は、深水管理をして幼穂を保護します。また、高温の強い風が予想されるときは、浅水程度で構いませんので、田面が見えないよう管理しましょう。

長い茎を抜き取り、カッターナイフで縦割りして調べます(図1・表2)。施肥量は、BBNK-202もしくは205の場合10kg当たり15kg施用します。

また、一番長い葉(12葉)の葉身長が44cm以上ある場合は倒伏が予想されますので、穗肥時期を遅らせるか、施肥量を控えましょう。「あさひの夢」については、出穂18~20日前(幼穂長3cm)をねらい、BBNK-202もしくは205の場合10kg当たり10~15kg施用します。

カメムシは畦畔の出穂したイネ科雑草に引き寄せられ、稻の出穂に伴つて稻穂に移動し加害します。稻の出穂2~3週間前と出穂期頃の2回連続で、地域ぐるみで草刈を行いましょう。また、水田内のノビ工やホタルイなどの雑草も取り除いておき、イネ科雑草の穂を作らせず、カメムシを寄せ付けないようにしましょう。なお、地域内で極端に早いか遅い出穂は被害を受けやすいので、特別な注意が必要です。

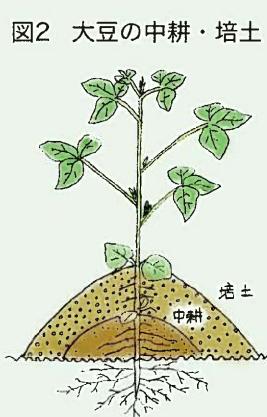
## カメムシ類防除

カメムシの防除は表3を参考に行つてください。



中耕は土壤への酸素供給と雑草抑制、培土は不定根の発生促進・倒伏防止・雑草抑制・排水性の改善など、品質・収量の向上を目的に行います。

## 大豆



1回目の中耕は播種後20日前を目標に、子葉節が埋まるように行います。2回目の培土は、1回目の中耕の7~10日後に、初生葉節が埋まるようになります(図2)。なお、中耕時には畦間の大豆の根を傷めることから、遅くとも開花1週間前までに培土を終えるよう努めましょう。

## 現地検討会

本年度の水稻栽培に関する肥培管

理、病害虫防除対策、リモートセンシングについて、各営農経済センター管

内ほ場にて現地検討会を開催します。日程は表4の通りです。詳しい内容お

び開催場所については、最寄りの営農経済センターにお問い合わせください。



## 『青壯年の記』 ～Youth & Middle～

### 平石支部

石支部は、本部事業に加え、地元小学校のサツマイモ畠の管理と農業体験活動を行っています。6月上旬にうね上げとマルチ張りを行い、その後子どもたちが苗を植えていきます。秋時期にはつる切り作業も行います。この活動を通して地元地域と交流しながら、教育活動に力を入れています。また、近年は「コロナ禍により行えていませんが、冬季に青壮年部支部員で視察研修を行っています。県外の農機メーカーや市場などを視察・見学し、若手農業者としての知識を深め、自分たちの農業経営につなげるとともに、部員同士の交流の場としても活用しています。

コロナ禍である現状、満足に支部活動を行えていませんが、状況が落ち着きましたら例年のように支部活動にも力を注いでいきます。



うね上げとマルチ張りをする盟友



平石支部の盟友

### 青壮年部全体(本部)

**J A**

青壮年部は、JA管内の若手農業者約250人からなる組織です。国本、城山、姿川、清原、平石、上河内、河内、南河内、上三川支部の計9支部で活動しています。地域農業活性化や農業の仲間づくりを第一の軸

とし、例年農業祭への参加や子どもたちへの農業体験、交流会や視察研修会開催など、多岐にわたる活動を行っています。

近年は、地元ボランティア団体に農畜産物の提供や、農業経営力向上を目指した学習活動に重点的に取り組んできました。今年度はアフターコロナを見据え、感染症対策徹底の上で交流事業などを復活させ、青壮年部を一層盛り上げていく予定です。消費者の皆さん「おいしい」がいつまでも続くよう、活動を通して地域農業を盛り上げます。

近年は親睦ボウリング大会の開催や地区農業祭への参加など、さまざまな活動を行っています。農業祭では、盟友の栽培したコメやナシ、ラフランスなど農産物の販売や、お菓子・おもちゃの福引を行っています。また、お米をその場でポン菓子にして無料配布しており、時には会場にいる地元の子どもたちと一緒に楽しくポン菓子づくりに励んでいます。

コロナ禍でなかなか思うように活動ができるていませんが、今後も若手生産者との関係性を作っていくような活動を行うとともに、地域に根差した活動に取り組んでいくことで、地域の方たちや子どもたちに農業に対し関心を持つてもらえるよう活動していきます！



農業祭でのポン菓子づくり



コロナ禍前の農業祭



私たちと一緒に青壮年部を盛り上げましょう！

# ワンプレートレシピ One plate recipe

## 「タケノコの香草焼き」



### 材料(1人分)

タケノコ……………1/4本  
(下ゆでて縦に4等分したもの)  
フルーツトマト……………1/2個  
ズッキーニ……………1/8本  
マッシュルーム……………1個  
ホタルイカ(ホタテでも可)……………5尾  
タイム……………2本  
オリーブ油……………大さじ2  
塩・こしょう……………適宜  
パルメザンチーズ……………大さじ1

### 作り方

- ① タケノコは皮から外し、ズッキーニ、フルーツトマトと共に大きめのさいの目に切る。マッシュルームは半分に、ホタルイカは目とくちばしを外しておく。
- ② ボウルに①の材料を入れ塩・こしょうし、オリーブ油とパルメザンチーズを入れ混ぜ合わせる。
- ③ タケノコの皮に混ぜ合わせた材料とタイムをのせ、180度に熱したオーブンで7~8分焼き上げて出来上がり。

茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン晴人)  
オーナーシェフ  
ながいともかず  
永井 智一



## シェフ永井のおすすめ



## 今月の直売所情報

### JAグリーンインターパーク直売所 初夏の大売り出し7月9日(土)、10日(日)

売り出し2年ぶりの再開です!  
お買得商品を取り揃えて皆さまの  
ご来店をお待ちしております。



### えきの市場 JA青果売場の 精米コーナーが新しくなりました!!

精米したてのお米のおいしさをぜひ!  
<取扱品種>  
みやおとめ・ゆうだい21・とちぎの星



### お米の特売日

いつもよりお買い得価格にて販売します!

#### ●JAグリーンインターパーク直売所

毎月第3日曜日(7/17)

#### ●JAグリーンかみかわち直売所

毎月8の付く日(7/8、18、28)

#### 特売 南河内グリーンセンター

### 第3金土日曜は特売デー

※好評につき期間延長!! 3日間開催!

#### 南河内グリーンセンター生産者さん募集!!

詳しくは南河内営農経済センター  
TEL: 0285-48-2215 営農課 森田・上野まで

# 河内支所

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



## 歴史と伝説の残る河内地区

JAうつのみや河内支所は宇都宮市の北東部にある河内地域に位置し、古くから交易のための各地を結ぶ道が整備された歴史ある地区として、管内には歴史あるスポットなどが多く残されています。

その中から今回は、河内地区の西部に位置する田原地域から不思議な伝説の残る場所をご紹介します。田原地域でも北西部に位置する逆面町には、その地名のいわれを秘めたとされる井戸があります。

この井戸には、宝亀元（770）年8月、下野薬師寺に配流されていた僧侶、弓削道鏡がこの井戸で水を飲もうとしたところ顔が逆さまに映り「この地を逆面と呼べ」と怒って立ち去ったという伝説があり、それ以来この地が逆面（さかづら）と呼ばれるようになったといわれています。この井戸は心の横しまな人がのぞくと顔（面）が逆さまに映るとの言い伝えもあるそうで、とても歴史を感じることができる場所となっています。皆さんも、もし、この井戸をのぞく機会があった際には気を付けてぞいでみてください。

この河内地区には他にも多くの名所旧跡などがあります。次の機会にまたご紹介させていただきますので、ご期待ください。



静寂に包まれ、神秘の雰囲気漂う井戸。



井戸の傍に立つ、伝説を今に伝える碑

## 明るい笑顔で皆さまのお宅へお伺いいたします！



皆さまのお宅へ、  
お伺いに立たしまわー！

河内支所はお客さまから信頼される明るい職員、また、地域の皆さまから愛されるJAを目指し、職員が日々業務に取り組んでいます。

皆さまのお宅へは金融専門2人、ライフアドバイザー（共済外務員）5人の合計7人がお伺いさせていただいております。笑顔と丁寧な応対を心掛け、日々皆さまのお役に立てるよう業務に取り組んでおりますので、お伺いした際はどのようなことでもお気軽にご相談ください！



### 各種お問い合わせはこちらへ

■ キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル0120-082065

■ 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

■ JA葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスアミラーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

■ LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先028-633-0085

### 支所・センター電話番号

中央支所	028-633-3467	南河内支所	0285-48-2211
宝木出張所	028-622-6111	上三川支所	0285-55-1510
平石支所	028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター	028-665-0550
南部支所	028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター	028-658-6565
城山支所	028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター	028-656-8484
北部支所	028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター	028-660-3535
豊郷支所	028-624-8011	上河内営農経済センター	028-674-2164
清原支所	028-667-0151	河内営農経済センター	028-673-6911
姿川支所	028-658-6881	南河内営農経済センター	0285-48-2215
上河内支所	028-674-3333	上三川営農経済センター	0285-55-1511
河内支所	028-673-3135	住宅ローンセンター	028-622-7100